

令和7年度 第1回遊佐町振興審議会会議録

・開催日時 令和7年7月29日(火) 午前9時30分～11時15分

・場所 遊佐町役場 議場

■出席委員

齋藤勝広、真嶋慎一、渡会健、阿部智井、松宮竜也、本間優子、池田信幸、東海林和夫、
筒井義昭、菅原覚、小野寺ゆり、榎本真一、森元拓、渡邊宗谷、後藤淳子、白旗康子

■欠席委員

石川茂稔、佐藤仁、大場清悦、伊原光臣

■町出席者

町長、副町長、教育長、総務課長、産業課長、地域生活課長、健康福祉課長、町民課長、教
育課長、議会事務局長

■事務局

渡会和裕、佐藤裕也、遠田久幸、瀧口めぐみ

次第

- 1 開会
- 2 委嘱状交付
- 3 町長挨拶
- 4 自己紹介
- 5 会長互選 森元拓委員
- 6 会長挨拶
- 7 会長代理、会議録署名委員の指名
会長代理 池田信幸委員 会議署名委員 齋藤勝広委員、真嶋慎一委員
- 8 遊佐町総合発展計画(第9次振興計画)策定についての諮問
- 9 協議
- 10 その他
- 11 閉会

協議の質疑応答等

(1)遊佐町総合発展計画(第9次振興計画)策定について

質疑なし

(2)振興審議会の審議事項及び進め方について

(委員)

部会を開催せず全体会が4～5回ということだが、今まで2部会でそれぞれ協議していたことを

全体会で消化できるという考えでよいか。

(事務局)

他自治体の協議事例を参考に、全体会のみで協議できると考え設定した。

(3)策定スケジュールについて

質疑なし

(4)意見交換

(委員)

日本全体で農業に従事している年齢層が高く、今後の担い手がいないことが課題だと思っている。農業に対するイメージが良くないことも要因と考えられるので、担い手が確保できるような魅力ある農業となるようお願いしたい。

(委員)

アンケート結果にもあるように遊佐町は広い土地、田園が魅力だと思っているが、基幹産業の稲作に関わる排管などの施設の老朽化が進んでおり、壊れてしまえば農業ができない、生活ができないことになる。これらの更新については国・県・町の支援で維持している状況である。今後もこの体制を維持してもらい、この平野と遊佐町をより良くしていただきたい。また、今回の計画を策定するにあたって、風力の位置づけをどうするかがポイントではないか。決まっていないこともあると思うが財政面も含めどう整理していくかも重要である。

(委員)

稲作について昨年は大雨の被害があったが、今年は干ばつ対策を行っている。米価高騰については、国の政策に応じて実施してきたにも関わらずこのような事態になっているのは国が状況を把握していないのが原因ではないかと感じている。人口減少の中で農業者の担い手不足が深刻。親世代が農業の魅力を伝えられなかった部分も大きいのではないか。人口減少、担い手確保について議論してもらいたい。

(委員)

農協女性部員数の減少と高齢化により役員の担い手不足が課題となっている。また、役員が会議等で集まる時間・場所の確保も難しくなっている。また町の会議に呼ばれることもとても多いので、先程話があった会議回数を減らすことは今後役員になる方にもいいことだと思う。また、遊佐高支援の取組や鶴岡の中高一貫校などがあるが、若者と高齢者が一緒になって活動し町が活性化するような取り組みが必要ではないか。

(委員)

商工会員数の減少が課題となっている。最低でも現状を維持したい。今後、PAT が開業に向かっていき、日沿道も秋田とつながる。町のいろいろなところで賑わいが出てくるのではないかと思うので、事業を進めてもらいたい。

（委員）

町の人口減少により消費者が減っているだけでなく、物価高騰により仕入れ値が上がっているが、売値を値上げしづらいため、経営に困っているという声を聞く。町で商売することの難しさを感じている。消費者が減ることは死活問題。町に人が増えることに加え、町外の人を呼べるような取り組みをしていきたいと思っている。

（委員）

地域では、若者が減って、人口も減少し、空き家も増えていることが大きな問題となっている。その中で今までやっている行事を継続していくことが根付いているような気がする。今後は、時代の変化とともに一つ一つの事業について検討し、減らすべきものは減らすという決断も必要だと思う。今後も町の様々な会議に出席していく中で、よりよいまちづくりに貢献できればと思う。

（委員）

福祉の現場の実情について発言したい。物価高騰で経費が嵩み施設経営が大変である。収入としての施設利用料金は国で決めた単価であり、上げ幅は抑制されている。利用料を上げるとは介護保険料の増にもつながり、利用する家族の心情にも影響を及ぼすため悩ましい。また、福祉部門で働く職員の処遇改善について国の補助があるが、障害者施設と特老施設で助成単価が同一でないため、法人内での統一を図るため持ち出しがある状況。雇用関係では、職員数がぎりぎりであり、人材確保に苦労している。外国人人材も活用しているが、マイナスの要因もある。今後国への働きかけを含めて町と一緒にやっていきたい。

（委員）

昨年の大雨災害を受けて、災害に強い地域づくりをしていきたい。人口について、2015 年に策定した人口ビジョンでは 2060 年に 8,000 人を維持する目標であったが、今年改訂された人口ビジョンでは 6,660 人へ下方修正されている。人口減少に関して特効薬はないが、人口ビジョンに掲げている目標達成のために、基本構想・基本計画策定にみなさんの知恵と力を結集してがんばっていききたい。また、人口が少なくなっても、元気なコミュニティを維持していききたい。

（委員）

保育・教育について発言したい。小学校統合に携わり無事統合したが、地域に子供の声が届かないところを何とかしたいと思い、令和と昭和の織りなす学校づくりができないかと考えていた。町の強みはたくさん大人の子どもと関わる社会教育力にあると思う。多くの大人が子供と関わ

る昭和のような体制を大事にしながらも、ドローンやプロジェクションマッピング、スマート農業などの先端技術を紹介し子供たちに夢のある未来像を見せてほしい。また、少子化は大きな課題。出生率 2.07 になってほしいが、少子化は徐々にではなくここにきて急激に進んできていると感じる。小学校は統合したが、今後は保育の場に対してもそのような流れがきている。統合には非常に時間を要するので今から進めていく必要があるのではないか。

(委員)

洋上風力や PAT 事業、日沿道整備、昨年の災害復旧などで町外からも多くの人が遊佐町に流入している状況。工事や事業が終わって、元に戻るのはもったいないので、そこをいくらでも緩和するためには仕事がないと人は定着しない。そのためには遊佐の魅力を発信し、魅力を感じる方が増え、定着人口に繋げることが重要だと思う。

また、町の事業者は遊佐への愛着や仲間意識が強く、自分の町を盛り上げようとする方が多いので、そのような方々と一緒に町を盛り上げていきたい。

(委員)

総合発展計画は町民と行政の協働によるまちづくりのための共通目標であるとの説明があった。計画は行政である遊佐町がまとめるものであるが、行政の支援プランをパッケージでまとめるものではなく、町民と協働で進めるもの。どのような計画になるのか、ボリューム感などは現段階では承知していないが、少子高齢化・人口減少は遊佐町に限った問題ではない。誤解を恐れずに言えば、計画内容として他の自治体と大きく変わるものではないと思うし、項目も現計画を踏襲するところが多くなるのではないかと。計画策定のためにワークショップやアンケートを実施しているので、そこから遊佐町ならではの部分を拾い出して、町民の方たちが計画を見てまちづくりに前向きに取り組んでももらえるような内容になるといいのではないかと。また、昨年大雨災害の教訓を踏まえ、全てを行政が担うのではなく、常日頃の準備、ソフト面で町民の意識を変えられるような内容もあるといいと思う。

(委員)

今年の 3 月に行われた地方創生推進会議で各銀行の支店長様から発言があった町の振興への助言を今後にも活用してもらいたい。旧高瀬小の体育館に町の未来を描いた絵がある。描かれた年代はわからないが、基盤整備や道路等がまだされていない時に町を想像して未来を描いたもののようだ。どのような思いで遊佐に期待して描いたのか心強く感じた。4, 5 年先、どうなるかはわからないが、町民も職員も「こういう町にしたい」というワクワクするような方向付けができればいいと思う。遊佐には、強い居場所の力がある。これを今後も大切にして、人口が少なくなっても将来に夢を持てるようなまちづくり指針を作っていければと思う。

(委員)

現在吹浦地区まちづくり協議会で防災関係の事業に携わっている。数年前から避難所開設訓練を行っており、自分で避難することが困難な方の個別避難訓練も行っている。その中で感じたことは、防災と福祉はどちらも一緒に考えていく必要があるということ。避難したあとに避難所での生活がある。昨年の大雨災害時も避難所には高齢者、車いすの方がいた。国の指導で行政が個別避難計画を作ることが義務付けられてきているが、住民ができること、顔が見える関係だからこそのボトムアップも大事だと思う。町だけに頼らず、自分たちができることは自分たちでやる、自分の住んでいる地域を良くしていきたいという気持ちを持っている。そういった視点でも計画を審議できればいいと思っている。

（委員）

現在蕨岡まちづくり協会で事業に携わっているが、小学校統合後子どもたちの声が聞こえなくなり、まちづくりセンターに遊びにくる子どもも少なくなった。昨年から高齢者の居場所づくり事業を始めたが、男性の参加者が少ない状況。何か困ったことや日常の些細なことであっても「まち協に連絡してみよう」となるよう体制づくりを目指したい。

（会長）

皆さんの意見として共通していたのは、人口減少が急激に進んでいるということ。農業、商業、福祉など町の基盤を揺るがしかねない状況になっている。難しいことではあるが、人口減少に歯止めをかけることが課題である。一方で、時代の変化の中で、がんばって維持していくものと見直していくものがあるとの意見があった。縮小均衡せざるを得ない中で何を残して何を整理していくかを考えて行かないと、夢物語だけでは町の発展には繋がらない。

町の発展は行政だけでは成し得ない。行政と町民が手を携えることで成り立つものだと思うので、町民の意識が重要になってくる。先ほど遊佐の方々は郷土愛、地元意識が強いとの話があった。その中にはアイデアや行動力を持つ方も多くいる。町民の方にも頑張ってもらえるような計画を作っていかなければと感じた。